

# THA 術後の脱臼予防教育 ～退院指導用 DVD 作成後の視聴の効果～

キーワード：退院指導・脱臼予防・DVD 視聴

1 病棟 7 階西

重富恵子 篠原由記子 松永芳枝 田中美幸 藤里美子

## I. はじめに

近年、在院日数の短縮に伴い短い期間でより効果的な退院指導を行い、退院後の日常生活の不安を軽減することが看護スタッフに求められている。

人工股関節全置換術後（以下 THA）の患者は股関節の内転位・内旋位・屈曲位などの危険肢位をとることにより脱臼する危険性が高く、先行研究でも退院後の生活状況の調査において、特に「入浴時」「靴下・ストッキングの履き方」「トイレ使用時」の 3 点が不安な項目としてあげられた。現在の退院指導は、退院決定時に担当看護師がこれらの項目を組み入れ、退院後の注意点を写真や文章を織り交ぜたパンフレットを用いて行っている。

しかし、退院後の患者より「脱臼しない安全な肢位がとれているかどうか不安に思いながら生活している」という意見が聞かれた。このことより、絵や文章だけでは読み手側の解釈に委ねられ、自宅での安全な肢位がイメージしにくいのではないかと考えた。

そこで私たちは、動画の方が自分の行動パターンをイメージしやすくなるのではないかと考え、退院後の日常生活を中心とした DVD 作成に取り組み、今後の退院指導の新たな改善点を考える機会を得たのでここに報告する。

## II. 研究方法

期間：平成 18 年 8 月 1 日～9 月 31 日 退院指導用 DVD 作成

平成 18 年 10 月 1 日～11 月 29 日 DVD 視聴

対象：上記期間中 THA 術後、退院が決定した入院患者 7 名

全て女性 50 代

方法：現在使用中のパンフレットを元に退院指導 DVD を作成し、当院股関節専門医へ患者視聴への許可を得る

退院が決定した時点で研究の趣旨を説明し、同意を得られた患者へ

① 従来通り、術前オリエンテーション時（手術 2 日前）に脱臼について、股関節の骨格模型を使った説明及び、シャワー浴・車椅子移動・身障者トイレの出入り方法などを説明するビデオを視聴してもらい、さらに退院決定時にパンフレットを用いて説明をした時

② ①に加え DVD を使用し退院指導を行った時に面接による聞き取り調査を施行。

①、②とも質問の内容は同じであり、面接時は倫理的配慮のもとに調査を行った。

### 質問項目

①「家に帰るにあたり不安なことはないですか」

②「パンフレットや DVD に付け加えてほしい項目はありますか」

③「指導時期はいつがいいですか」

### III.結果

「家に帰るにあたり不安なことはないですか」という質問に対し、方法①の場合、「写真や活字だけでは動作としてイメージしにくい」「自分は分かるが、文章だけでは家族や手術をしていないほかの人にはわかりにくい」という意見があった。方法②の場合、「動画の方がよりイメージがつきやすく、わかりやすかった」「浴槽の入り方があったのはすごくわかりやすかった」「自分の家にはまだ手すりがないが、つける位置が参考になった」「ここまで動いていいと分かって安心した」という意見があった。

「パンフレットや DVD に付け加えてほしい項目はありますか」という質問に対し、方法①の場合は「分からない」という意見が多く、方法②の場合は「玄関の段差の昇降方法」「重い物の持ち方」「両 THA をした場合の注意点」との意見があった。

「指導時期はいつがいいですか」という質問に対しては、方法①の場合「退院が決まったとき」「早すぎると分からない」という意見があり、方法②の場合「リハビリが開始になる前に見たい」「入院中に何度も見たい」「できれば退院のときに持って帰りたい」との意見が聞かれた。また、方法②のその他の意見として「一人で見るのではなく、大勢で見たい」という意見もあった。

### IV.考察

方法①の時は具体的な質問はなかったが、方法②の時は新たな質問・反応が出てきた。Schnotz は<sup>1)</sup> 動画を含む教材の方が静止画のみの教材よりも学習効果が大きいと言っていることから、動画を見る事で自分との比較ができ、イメージがしやすくなったからだと考えられる。しかし、動画では決められた時間で流れてしまうため、動作ごとの理解度を確認しながら繰り返し視聴する必要がある。また<sup>2)</sup>手術後に活動制限や社会的役割の変更を余儀なくされる患者もおられ、この時身体的・精神的フォローの為にキーパーソンとなる家族の教育も必要となる。その為、家人と視聴する機会を増やし、家族を含め危険肢位や日常生活動作に対する知識を深める事が重要と考える。

DVD 視聴時期に関しては、リハビリ前の視聴を希望していることが明らかとなった。このことは、現在使用しているビデオ・パンフレットだけでは、日常生活のイメージがつかめず、不安に感じることもある為と思われる。今回作成した DVD を早期に視聴することで、自宅でのイメージがわきやすく知識を得てリハビリを行うことにより、質問もできより理解度も深まるのではないかと考えられる。そこで視聴時期を退院前だけでなく、術後早期より視聴してもらい、理解度に応じ視聴回数を考慮していく必要がある。

現在は患者の要望もあり、新たな退院指導方法として複数の患者での視聴会を取り入れており、患者同士でも意見交換が活発に行われている。患者個々の生活様式は様々であり、個人に合わせた内容を映像化することは困難な為、視聴時は必ず看護師が同席し、退院後をイメージできるような質問をしながら助言を行うことが重要となる。

### V.結論

- ① 退院後の日常生活で不安に感じていた項目を取り入れ、DVD 作成に取り組んだ
- ② パンフレットより DVD 視聴の方が危険肢位や日常生活動作のイメージがつきやすく、さらに集団視聴を取り入れた事で意見交換の場ともなり、患者の評価も高かった。
- ③ 今後、患者の理解度に応じて視聴回数を重ね家族と共に視聴する機会を増やす必要がある。

## VI.終わりに

今後も DVD 視聴を継続していき患者・家族からの意見を参考にして、不足している項目を追加していくと共に、退院後の DVD 視聴の効果についての追跡調査を行うことが課題である。

## 引用・参考文献

- 1) 小暮照正：生涯学習における e-Learning：学習効果の視点を中心に,福島大学総合情報処理センター広報第 1 号 (2004・3)
- 2) 石原喜久子・杉田由子・後藤享子 他：【目指せ！効果的な退院指導コーディネートはナースの役割】指導の実際 人工股関節置換術の場合,整形外科看護 8 巻 P709 (2003)
- 3) 福田有貴・花房智子・小磯佳代子 他：人工股関節術後患者の家庭における生活行動の実態調査 自立度と困ったこと,鳥取病院医学雑誌 11 巻 P45-46(2002)
- 4) 神先秀人,飯田寛和,中村孝志 他：退院指導人工股関節術後患者の退院指導の実際,理学療法ジャーナル 34 巻 (10) P717-723 (2000)
- 5) 高野圭子,篠原由記子,宮崎綾子 他：THA 患者の脱臼予防教育の検討～面接調査を通して効果的な退院指導を考える～院内看護研究 (2004)